



Title	Comparison of High Resolution CT Findings of Sarcoidosis, Lymphoma, and Lymphangitic Carcinomatosis : Is There Any Difference of Involved Interstitium ?
Author(s)	本多, 修
Citation	大阪大学, 2000, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/41801
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について ご参照 ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	ほん だ おさむ 本 多 修
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学位記番号	第 1 5 2 8 8 号
学位授与年月日	平成12年3月24日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科内科系専攻
学位論文名	Comparison of High Resolution CT Findings of Sarcoidosis, Lymphoma, and Lymphangitic Carcinomatosis : Is There Any Difference of Involved Interstitium ? (サルコイドーシス、悪性リンパ腫、癌性リンパ管症のHRCT所見の比較：間質への進展の差異)
論文審査委員	(主査) 教授 中村 仁信 (副査) 教授 青笹 克之 教授 金倉 讓

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

リンパ管は肺内においては気管支血管周囲管質や小葉間隔壁、胸膜下間質の広義間質に沿って分布しており、リンパ路に沿って分布する疾患においてはこれらの広義間質の肥厚像が認められる。リンパ路に沿って進展する疾患としてよく知られているサルコイドーシス、悪性リンパ腫、癌性リンパ管症の三疾患における広義間質への分布の違いを調べるとともに、各疾患の合併所見を解析し、三疾患のCT画像上の差異を検討した。

【方法ならびに成績】

癌性リンパ管症40例、サルコイドーシス41例、悪性リンパ腫44例におけるCT画像を検討した。読影は二人の胸部放射線科医の合意によって行われ、時間をあけて2回施行された。2回の読影間に有意差がないことはカッパー検定及びスピアマン順位相関係数にて確かめた。HRCT (High Resolution CT) 画像にて最も病変の強い1スライスを選択し、小葉間隔壁の肥厚の数、気管支血管周囲間質の肥厚の数、胸膜下間質の肥厚の数を数えた。肥厚した小葉間隔壁の数は別の小葉間隔壁とつながる部分までを1本と算定した。肥厚した気管支血管周囲間質の数は枝分かれするまでの部分を1本と算定した。肥厚した胸膜下間質は肥厚した部分をそれぞれ1箇所と算定し、すべての胸膜に占める肥厚した胸膜下間質の割合を視覚的に求めた。選択したスライスにおける広義間質の病変の広がり面積が30%までをグレード1、60%までをグレード2、それ以上をグレード3として病変を視覚的に定量化した。以上の解析にはKruskal-Wallis検定及びunpaired t-testを用いて検討したが、各疾患群におけるグレードの差異はなかった。

またHRCT、conventional CTのすべてのスライスを用いてconsolidation, central dot, reticular opacity, cavity, mass (>30mm), large nodule (11-30mm), nodule (3-10mm), micronodule (<3mm), 縦隔リンパ節腫大、肺門リンパ節腫大、胸水、心嚢水の有無を調べた。分布に関しては上葉・中葉および舌区・下葉に分けて病変の有無を調べ、病変が片側性か両側性かについても検討した。以上の統計学的解析には χ^2 検定を用いた。

気管支血管周囲間質の肥厚の数には各疾患群で有意差は認められなかった。癌性リンパ管症における小葉間隔壁の肥厚および胸膜下間質の肥厚はサルコイドーシスや悪性リンパ腫と比較して有意に多く認められた ($p < 0.0001$)。悪性リンパ腫における11-30mm大の結節(41%)は、他の二疾患と比較して多く認められた ($p < 0.001$)。両側性分布はサルコイドーシスにおいて多く認められ(100%)、他の二疾患と有意差が認められた ($p < 0.001$)。

【総括】

サルコイドーシスや悪性リンパ腫と比較して、癌性リンパ管症は小葉間隔壁や胸膜下間質に病変が進展しやすく、HRCT上小葉間隔壁や胸膜下間質の肥厚像が多く認められた。また large nodule (11-30mm) は他の二疾患と比較して悪性リンパ腫に多く認められた。サルコイドーシスは他の二疾患と比較して両側性に病変が認められた。これらの所見はサルコイドーシス、悪性リンパ腫、癌性リンパ管症の鑑別のでがかりと考えられる。

論文審査の結果の要旨

審査対象の主論文はリンパ路に沿って病変が認められる疾患として有名なサルコイドーシス、悪性リンパ腫、癌性リンパ管症の三疾患のCT画像を用いて、各疾患の間質への進展およびその他のCT画像所見の差異を明らかにしたものである。この研究はサルコイドーシス、悪性リンパ腫、癌性リンパ管症の鑑別という観点から臨床的にも有用であり、学位の授与に値すると考えられる。